

未来を切り拓く！新時代に対応した資質・能力育成推進事業

【趣旨】

学習の基盤となる資質・能力や、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力を育成するため指導と評価の一体化の研究を推進し、その成果を普及させる。

【高校教育が目指す方向と課題】

超スマート社会（「Society5.0時代」）において、主体的に学んで必要な情報を判断し、よりよい人生や社会の在り方を考え、多様な人々と協働しながら問題を発見し解決していくために必要な力を、生徒一人一人に育てていくためには、あらゆる教科等に共通した学習の基盤となる資質・能力や、教科等の学習を通じて身に付けた力を統合的に活用して現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を、教育課程全体を見渡して育てていくことが重要となる。

【課題1】

- 高校の授業における指導上の問題
 - ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が不充分
 - 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
 - 「指導と評価の一体化」の充実
 - 教師のICT活用指導力の向上

【課題2】

- 高校生を取り巻く学習への取組が変化
 - ・ 学習時間の減少や学習意欲の希薄化
 - ・ 生徒の興味・関心、能力・適性の多様化
 - ・ 生徒の自己肯定感の低下
 - 生徒たちの可能性を引き出す機会が必要
- 高校生を取り巻く進路環境の変化
 - ・ 就業構造の変化や進路選択の多様化
 - キャリア教育・進路指導の充実必要

令和の日本型学校教育推進支援プログラム

- ◎ 研究指定校（3校）の指定（3年間）（研究推進委員の募集5教科×5人）
 - * 現代的な課題に対応して求められる資質・能力を、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点に基づき育成する。

県立高校探究リーダー育成プログラム

- ◎ 探究力向上セミナーの開催（年3回）
 - * 探究活動についてのオンライン講習会を開催。各学校からは生徒3～4人及び顧問教師1人を1グループとして参加。
- ◎ 高校生探究コンテスト
 - * 各高校の代表による発表会

生徒支援プログラム

- ◎ 夏トライ！ グレードアップ・ゼミの開催（8月初旬）
 - * 大学進学を希望する高校2年生（300人程度）を対象に授業力のある教員が授業を行う
 - * 生徒の学習意欲の向上、進路意識の高揚、学力向上を図ることが目的

キャリア・デザインプログラム

- ◎ キャリア・デザインセミナーの開催（年1回）
 - * 高校生を取り巻く進路環境の大きな変化を踏まえ、各学校の特色を生かしたキャリア教育と進路指導の充実を図ることが目的

【期待される効果】

- 1 「主体的・対話的で深い学び」をとおして、新しい時代に求められる資質・能力の育成につながる
- 2 生徒の可能性を引き出すことで、生徒の学びに向かう力の向上につながる
- 3 各学校の特色を生かしたキャリア教育・進路指導の更なる充実が図られる

生徒が超スマート社会に求められる資質・能力を身に付け、進路目標を実現する

県立高校探究リーダー育成プログラム

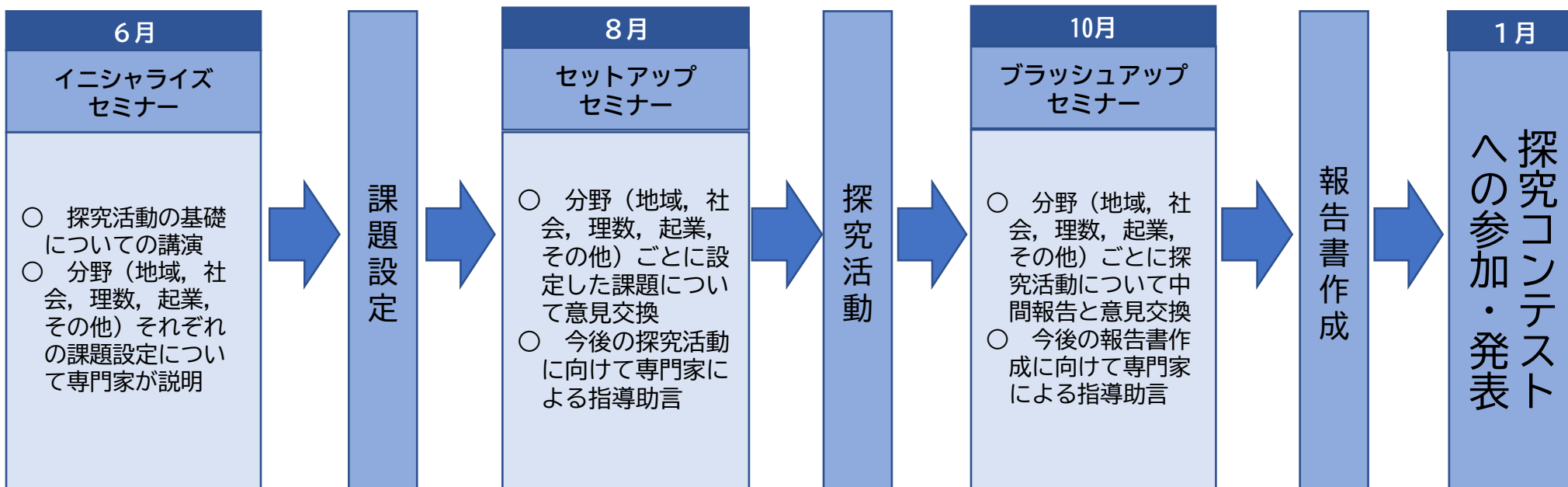
【目的・必要性】

令和5年6月に閣議決定された新たな教育振興基本計画のコンセプトとして「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」を掲げており、「多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方」を実現するために、「幸福感、学校や地域でのつながり、利他性、協働性、自己肯定感、自己実現等が含まれ、協調的幸福と獲得的幸福のバランスを重視」すべきとしていることから、これまで以上に「主体的に社会の形成に参画、持続的社会的発展に寄与する」人材の育成が求められている。高等学校におけるこうした人材の育成のため、「主体的・対話的で深い学び」の核となる探究活動の充実を図る必要がある。

【事業内容】

- 県立高校の生徒とその指導を行う教職員を対象に、探究活動の進め方等についてのセミナーを開催し、各高校における探究活動の充実を図る。
- 各高校からは、探究活動に興味・関心が高い生徒とその指導を行う教職員が受講登録をしたうえで、各セミナーに参加する。
- 参加者は、各学校において成果を発表するとともに、探究活動を推進するリーダーとして活動する。

事業の流れ



■ 高校生探究コンテスト（探究学習成果発表大会）

○ 目的

高校生に課題研究等の探究学習の成果を校外で発表する場を提供し，異なる分野において設定された課題について探究活動を行った生徒と切磋琢磨する経験をさせることにより，探究学習への意欲を高め，これからの時代に求められる思考力・判断力・表現力等の育成を図る（探究学習を支援・促進するような教師の育成を図るとともに，本県の更なる探究学習の可能性を展開する）。

○ 対象者：県内公立高等学校に在籍する生徒

○ 令和6年度の結果概要

- ・ 応募数 スライド発表の部 27校47点
 ポスター発表の部 21校97点
- ・ 最終審査会 22校から生徒362人，教員・一般50人
 指導助言者26人，企業等13人 計451人
- ・ 審査結果 スライド発表の部
 最優秀賞 自然科学分野：錦江湾
 社会科学分野：甲南，曾於
 ポスター発表の部 生徒間投票12点，特別賞8団体

■ 夏トライ！グレードアップゼミ（探究ワークショップ）

○ 目的

- (1) 進学に関し、同じような意識を持った生徒たちが一堂に会し、切磋琢磨しながら学習することで、より明確な進学意識の涵養を図る。
- (2) ゼミを公開することで、授業担当教員の資質向上とともに、参観教員の指導法改善に役立てる。

○ 対象者：県内公立高等学校2年生，各公立高等学校教諭等

○ 令和6年度の状況

- ・ 参加校：県立23校，市立1校 参加者：参集型147人，オンライン16人

○ 内 容

- ・ 1日目：講演会（60分），授業（60分×3コマ）
- ・ 2日目：授業（60分×2コマ），**ワークショップ**

○ ワークショップの内容

- ・ 『探究ワークショップ』
探究の「課題設定」に焦点を当て、様々な視点からテーマについて考え、今後の探究活動につなげられるよう学び合う。
- ・ 『主権者教育ワークショップ』
- ・ 『鹿児島大学による教育志望の生徒のための講座』

高校生サミットIN奄美（奄美群島高校探究コンソーシアム主催）

高校生サミット IN奄美 2025

基調講演 | 課題研究発表会 | 生徒交流会

日時：2025年3月19日（水）9：00～16：40
会場：鹿児島県立大島高等学校
主催：奄美群島高校探究コンソーシアム
参加高校：大島高校 奄美高校 大島北高校 沖永良部高校
喜界高校 古仁屋高校 樟南第二高校 徳之島高校
与論高校 横浜サイエンスフロンティア高校

大島高校公式YouTubeチャンネルにてライブ配信あり。
<https://www.youtube.com/@koukouoshima9827>

画像提供(C)Amami City

大会テーマソング：『あたらしい歌』東郷晶子

ようこそ高校生サミットIN奄美2025へ！

SCHEDULE

9:00～9:20	開会宣言（大会生徒委員長）・開会挨拶（奄美群島高校探究コンソーシアム会長） 祝辞（奄美群島広域事務組合管理者 安田 壮平【奄美市長】） 集合写真撮影
9:20～9:30	歓迎アトラクション：奄美民謡 （大島高校卒業生 時間 優里菜さん）
9:30～10:00	基調講演『もうひとつの故郷・奄美 ーパッションフルーツ研究の先に見るものー』
10:10～12:05	課題研究発表【午前の部】 ※途中休憩有り
12:05～12:55	昼休憩
12:55～13:10	アトラクション（大島高校 書道部）
13:10～15:00	課題研究発表【午後の部】 ※途中休憩有り
15:10～15:40	全体総評
15:50～16:40	生徒交流会

講演者

岩井 久

鹿児島大学
理事
副学長（企画・社会連携担当）
奄美群島拠点 拠点長



課題研究発表

- ・【午前】、【午後】で5グループずつ発表
- ・発表時間10分
- ・質疑応答10分
- ・途中休憩を挟みます

奄美群島高校探究コンソーシアム

第8回NITS大賞（独立行政法人教職員支援機構 令和6年度表彰事業） 大賞受賞

・奄美群島内高等学校の探究活動に対する支援体制の構築
・支援可能な研究機関及び研究者の情報共有

コンソーシアムのイメージ図

コンソーシアムに参加する研究機関及び研究者からの支援

- ①各高校の探究活動のサポート
- ②「高校生サミットIN奄美」（奄美群島高等学校課題研究発表会）での指導助言

コンソーシアムメンバーの支援内容のデータベース化

「奄美群島高等学校探究コンソーシアム」メンバー登録シート

氏名	所属	担当分野	連絡先	備考
岩井 久	鹿児島大学	理事	099-238-1234	副学長（企画・社会連携担当）
安田 壮平	奄美市長	祝辞	099-238-1234	
喜界 久	喜界高校	探究活動	099-238-1234	
徳之島 久	徳之島高校	探究活動	099-238-1234	
古仁屋 久	古仁屋高校	探究活動	099-238-1234	
大島北 久	大島北高校	探究活動	099-238-1234	
大島南 久	大島南高校	探究活動	099-238-1234	
大島東 久	大島東高校	探究活動	099-238-1234	
大島西 久	大島西高校	探究活動	099-238-1234	
大島中 久	大島中高校	探究活動	099-238-1234	
大島小 久	大島小高校	探究活動	099-238-1234	
大島幼 久	大島幼高校	探究活動	099-238-1234	
大島保 久	大島保高校	探究活動	099-238-1234	

※各学校が、支援する研究者等の情報を共有し、必要に応じて、研究機関や研究者に直接依頼することが可能に。

【参画団体】

- ・奄美群島高等学校全9校（大島高校、奄美高校、大島北高校、沖永良部高校、喜界高校、古仁屋高校、樟南第二高校、徳之島高校、与論高校）
- ・鹿児島大学、東京大学大気海洋研究所、志学館大学、第一工科大学、駒澤大学応用地理研究所、株式会社アーダン
- ・鹿児島国際大学、鹿児島純心大学

■ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業①

○ 事業の趣旨

高等学校及び中高一貫教育校における先進的な科学技術，理科・数学教育を通して，生徒の科学的な探究能力等を培い，もって，将来国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を図ることとする。（SSH実施要項より抜粋）

○ 本県指定校（公立）・研究開発課題

- ・ 錦江湾高校

「生徒の“気づき”から学びを深化させる錦江湾SSH探究プロジェクト」

- ・ 鹿児島中央高校

「協働的な活動の中で主導的な役割を担い，科学的な思考によりさまざまな課題を解決できる術を身に付け，未来を担う人材の育成 ～現代の『造士館』を目指してⅡ～」

- ・ 国分高校

「霧島から世界へ イノベーティブな科学系人材の育成を目指した国分プログラムの開発と展開」

- ・ 甲南高校

「より良い未来創造に挑戦し続ける科学技術系グローバルリーダーの育成」

■ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業②

○ SSHコーディネーター事業

令和7年度 SSHコーディネーター 採択

- 目的：① SSH校（県立4校）の取組への支援と県内SSH校の連携強化
② 高校や大学，県機関，NPO法人，企業等との県高校探究コンソーシアムの構築
③ SSH研究開発の成果の普及

○ SSH交流フェスタ（令和7年度は，12月11日に実施予定）

目的：SSH校（5校）及び課題研究に取り組んでいる県内高校生の探究力やプレゼンテーション能力を高め，新たな課題を自ら見つけ，考え，判断し，解決するに至る学びの過程を報告しあうことにより，互いに切磋琢磨し意識の高揚を図る。また，県下高校理数教育及び文理課題研究の発展と普及を図るための場とする。

○ 鹿児島科学技術コンソーシアム（仮称）の創設【令和8年度から（予定）】

目的：SSH校及び加入を希望する一般校からなる鹿児島科学技術コンソーシアムを構成し，鹿児島県における探究活動を充実させるとともに，理数教育発展と科学技術人材の育成を目指す。



スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組事例（令和6年度）

【概要】

SSH 指定校では、各学校で作成した計画に基づき、独自のカリキュラムによる授業の展開や、大学・研究機関との連携による授業、地域の特色を活かした課題研究などに積極的に取り組み、普段の高校生活では出会えない人との出会い、交流、研修による体験、発表等を行っています。

実践型

福島県 IV期 国際交流

福島県立福島高等学校

英国の高校生を日本に招いて、東北、関東、関西の高校生と共に、東北大学での研究体験活動や福島県での震災研修を行う「日英サイエンスワークショップ」を6泊7日で実施しました。福島第一原子力発電所視察研修後のディスカッションでは、多種多様な視点からエネルギー問題を考え、東北大学では、実際の研究活動を体験し、その成果を発表することで、国際的な研究者としての資質や能力を向上させました。研修に参加した同校生が福島県内のSSH3校による英語研究発表会の運営において活躍するなど、周囲への波及効果も大きく、系統的な人材育成プログラム的一端を担う事業です。



福島第一原子力発電所視察研修後のディスカッション

実践型

大分県 III期 地域との連携

大分県立日田高等学校

「水郷」と呼ばれる豊かな資源に囲まれた同校は地理的条件により大学等との連携に難しさがある一方で、水郷を生かして様々な特徴を持った企業や団体があります。地域の課題解決を目指す「水郷ひた学」の授業では、課題発見を目的としたフィールドワーク、解決に向けた企画案を発表する意見交換会、社会実装のアイデアを地域へ提言する成果発表会を行っています。その全てにおいて、一般社団法人のコーディネーターや日田市の支援のもと多くの人的、物的資源と連携・交流する中で、探究する力や波及させる力を育成するとともに、地域の未来を開拓する人材育成を目指しています。



地元企業の方と意見交換をする様子

実践型

兵庫県 III期 カリキュラム開発

兵庫県立明石北高等学校

同校では1学年自然科学科の生徒を対象に、地元企業や博物館、美術館、大学等と連携した11種類のSTEAM研修を展開しています。各研修に共通するねらいは、実践的な活動を通して多分野融合の重要性を実感させることです。Mとして数学検定とプログラミングを必須、S・T・E・Aから2つの分野を選択させます。数学検定は同校開発教材を用いて、課題研究を進めるために必要な対数や三角関数等を授業に先駆けて自学させます。生徒の興味関心が定着する前に、実験や実習を取り入れた多様な研修を提供し、科学技術分野における関心の広がりや創造性の深まりを促進させています。



X線撮影による画像処理（微分積分の応用）の様子

英国高校生と、東北大学での研究体験や震災関連施設での研修など科学を通じた交流・学術活動を行うことで、世界で活躍するリーダー育成を目指す取組

地域の課題解決を目指す「水郷ひた学」の授業において、一般社団法人、日田市のコーディネーターや支援のもと、地元のあらゆる資源と連携する取組

多分野融合がもたらす内面的な成長と創造的思考力の深化
地域と連携して生徒の興味関心を広げるSTEAMの学び

【高等学校教育の更なる充実にに向けた取組等】

令和7年度予算額（案）

2億円

令和6年度補正予算額

(新規)
74億円

高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

現状・課題

大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要

事業内容

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、専門的な外部人材の活用や大学等との連携などを通じてICTを活用した探究的・文理横断的・実践的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

支援対象等

公立・私立の高等学校等
(1,200校程度)

箇所数・補助上限額 ※定額補助

- 継続校 : 1,000校 × 500万円（重点類型の場合700万円）
- 新規採択校 : 200校 × 1,000万円（重点類型の場合1,200万円）
- 都道府県による域内横断的な取組 : 47都道府県 × 1,000万円
※必須要件に加えて、各類型ごとの取組を重点的に実施する学校を重点類型として補助上限額を加算（80校（半導体重点枠を含む））

採択校に求める具体の取組例（基本類型・重点類型共通）

- 情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進（遠隔授業の活用を含む）
- 情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置
- デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施
- デジタルもののづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- 高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- 地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目（数学Ⅲ等）の遠隔授業による実施
- 専門高校において、デジタルを活用したスマート農業やインフラDX、医療・介護DX等に対応した高度な専門教科指導の実施、高大接続の強化

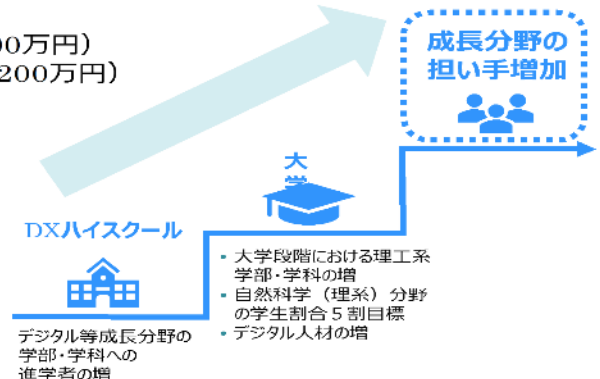
採択校に求める具体の取組例

重点類型（グローバル型、特色化・魅力化型、
プロフェッショナル型（半導体重点枠を含む））

- 海外の連携校等への留学、外国人生徒の受入、外国語等による授業の実施、国内外の大学等と連携した取組の実施等
- 文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換
- 産業界等と連携した最先端の職業人材育成の取組の実施

支援対象例

ICT機器整備（ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等）、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費等



事業スキーム



（担当：初等中等教育局参事官（高等学校担当）付）



高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

重点類型

重点類型では、情報Ⅱ等の教科・科目の開設等、デジタル環境の整備と教育内容の充実の必須要件に加えて、それぞれの類型ごとの以下の要件を満たす取組を重点的に実施する高校に対して、単価を加算して支援

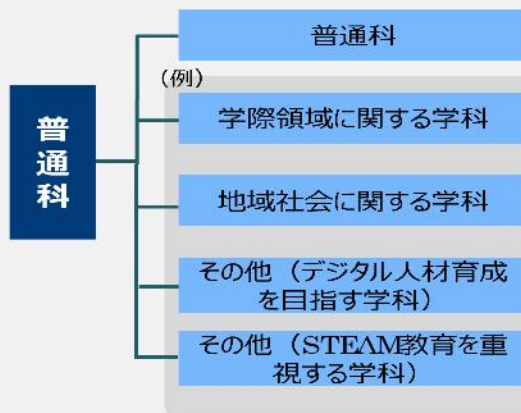
グローバル型

- 海外の連携校等への短期・長期留学や海外研修等をカリキュラムの中に体系的に位置づけて、対象となる生徒が経験する
- 海外の連携校等から外国人生徒を受け入れ、日本人生徒と外国人生徒が一緒に外国語等での授業を履修する
- 外国人生徒を自校での卒業を前提に受入れ、日本での進学・就職を目指し、デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びを実施する
- 国内外の大学、企業、国際機関等と協働し、国内外の高等学校等との連携による高校生国際会議等を行う 等



特色化・魅力化型

- 「その他普通教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科（新しい普通科）」を設置していること 又は当該年度中に設置することを対外的に公表すること
- 設置する新しい普通科が目指す特色・魅力ある教育の実現に向けたスクールポリシーを策定する
- 探究学習の充実等のため関係機関との連携協力を担うコーディネーターを配置すること
- コンソーシアムを置く等関係機関等との連携協力体制を整備すること 等



プロフェッショナル型

- 専門高校と産業界等の連携体制を構築すること
- 企業等の技術者・研究者等による授業・実習や最先端のデジタル機器等の共同利用等を行うこと 等



プロフェッショナル型 （半導体重点枠）

- 半導体に関する教科・科目を開設すること 等



■ 高等学校 D X 加速化推進事業（普通科高校の事例）

○ 内容

- ・ 情報，数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに，I C T を活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校などに対して，そのために必要な環境整備の経費を支援

○ 普通科を設置する採択校

- ・ 基本類型（12校）
⇒ 鶴丸，伊集院，川内，薩摩中央，出水，蒲生，加治木，垂水，種子島中央，大島，古仁屋，喜界

○ デジタル機器の導入事例

- ・ 普通教室に短焦点壁掛けプロジェクター設置
- ・ グラフィックボード搭載高性能 P C，3 D プリンタ
- ・ 裸眼で立体的な映像を体験できる空間再現ディスプレイ
- ・ 教育用ロボット，ドローン など

DXハイスクール 取組事例



千代田区立九段中等教育学校
(公立・普通科)



「アイデアをカタチに」

- ・ 文理横断実体験型学習プログラム
- ・ 創造型情報実習スタジオの創設

取組

探究を軸として、数理・データサイエンス・AIなどを含む
STEAM教育の学習を取り入れたプログラム開発



外部講師（企業専門家や大学・専門学校講師等）を招聘し
文理を横断した実体験型プログラムの実施。

実習案

モーションデータ分析実習、校内スマート菜園実習、
デジタルファブリケーション実習、デジタル作曲音声合成実習、
VR空間体験実習等

※ 情報Ⅱ、情報探究（学校設定科目）、総合的な探究の時間、
その他各教科の授業における課外プログラムにおいて実施

【実習イメージ】



（校内スマート菜園実習）



（デジタル作曲音声合成実習）



（VR空間体験実習）

データサイエンス等に十分活用できる
新情報実習スタジオ創設、校内環境整備



デジタル人材育成に資する高度なデジタル技術（設備・機器・
アプリケーション）を生徒自身が活用できる実習環境の整備を行う。

整備案

高度なデータ処理のできるハイスピードPC、IoTセンサー機器、
広帯域通信ネットワーク機器、デジタル楽器、
高性能カメラ・ドローン・VR、デジタルファブリケーション機器、
高輝度プロジェクタ等及び対応アプリケーション・資材・造作



生徒向け講習・教員向け研修の充実



外部講師及びICT支援員による定期的な講習、研修の実施を
充実させ、以下の内容を一貫性を持ち進めていく。

- ・ 最新のデジタル技術の活用を日常的に行うことのできる環境づくり
- ・ 校内の各種機器及びシステムの更新

育成する生徒像・取組による効果



自らの興味関心を活かし、社会の課題と結び付けて思考し、高度なデジタル環境を駆使することのできる生徒、アイデアを
具体的な形づくりに結び付ける探究的活動に主体的に取り組み、将来の進路に繋げる生徒を育成する。

教科情報の科目履修率（開講学年生徒の内）
情報探究（学校設定科目）50%以上

数理・データサイエンス・AI等の活用を含む総合的な探究の時間プログラムの履修率：100%※1

大学理系学部進学率：30%※2 ※1 令和8年度目標値 ※2 令和10年度目標値

生徒の学び方・教員の働き方のDX環境満足度向上

■ 国際理解教育①

- 1 グローバル人材育成事業（留学支援促進事業）
短期海外派遣プログラムに学校教育活動の一環として参加する生徒を対象に支援金を支給
〔令和6年度〕応募3校50人，支給20人（鹿児島育英館高校）
- 2 世界を広げる英語コミュニケーション能力育成事業
 - (1) 高校生イングリッシュトレーニングキャンプ（1泊2日）
高校生が県内のALTと英語によるコミュニケーションを体験
〔令和6年度〕県内公立高校24校，生徒75人参加
 - (2) 世界とつながれ！かごしまグローバル人材育成講演会（留学フェア）
専門家による講演，留学経験者による留学体験報告，ALTによる母国紹介・英会話体験
〔令和6年度〕小学生13人，中学生25人，高校生69人，
保護者・一般78人，教職員9人 計194人参加

■ 国際理解教育②

2 世界を広げる英語コミュニケーション能力育成事業

(3) English Café in Kagoshima

A L Tとの交流

〔令和6年度〕

①公立高校17校，生徒93人，教員17人，A L T 18人 計128人参加

②公立高校9校，生徒22人，A L T 13人 計35人参加

3 教室から世界へ！かごしまグローバルクラスルーム事業

県内の中・高等学校と海外校（台湾，ベトナム，オーストラリア）間でのオンライン交流（年4回）と派遣交流

〔令和6年度〕

・オンライン交流：中学校8校，高校10校

・派遣交流：中学校8人，高校10人（各校代表者1人）

4 A L T活用促進事業

〔令和7年度〕高校教育課配置2人，高校配置36人

WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業の取組事例（事業拠点校 広島県立広島国泰寺高等学校 公立）

構想：広島から世界へ！ 平和に貢献するグローバル人材の育成

テーマ **平和－Peace－** 人材像 **グローバルな視野と強い使命感をもち、持続可能な社会の構築や国際社会の平和と発展に貢献する人材**

- 特徴**
- ①新たな教科・科目の開発：新たな教科「H E I W A」・科目「グローバル平和探究」を開発。
 ✓問題の理解や解決に様々なアプローチができるテーマについて、理解を深め、実際の探究を通して多面的に探究する手法や多様な表現方法を学ぶ。
 「外国語」「地理、政治・経済」「情報、数学（統計）、理科（生物）」の融合科目
 - ②海外研修等：3ステップの海外研修を実施。 ✓フィリピンやアメリカにて現地の姉妹校の高校生や海外大学で探究活動を実施。
 「ステップ1：意識・価値観の揺さぶり」「ステップ2：海外大学で学ぶ」「ステップ3：自らの課題を探究、学びを深め、社会に貢献」
 - ③先取り履修：広島大学、県立広島大学の科目を履修する講座（「先取り履修」）を設置。
 - ④高度な学び：「Stanford e-Hiroshima」の開講。 ✓スタンフォード大学遠隔講座「Stanford e-Japan」のテーマを広島県版として
 - ⑤国際会議等：「平和」をテーマとした高校生国際会議の開催。 改訂し、クロスカルチャーカリキュラムとして提供。

→広島県「国際平和拠点ひろしま構想」とともに、先導する人材を育成するための様々な関係機関とのコンソーシアム構築を目指す。

探究活動の様子



④の様子：スタンフォード大学遠隔講義

①の様子：探究活動の様子

高度な学びを実現する

「アドバンスネットワーク（ALネットワーク）」関係図と類型

✓ネットワークの構築・運営を、教育委員会が主導。 →教育委員会主導型

